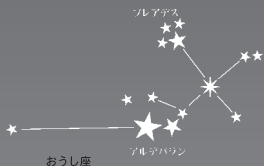


ポラリスを仰ぐ北の大地から



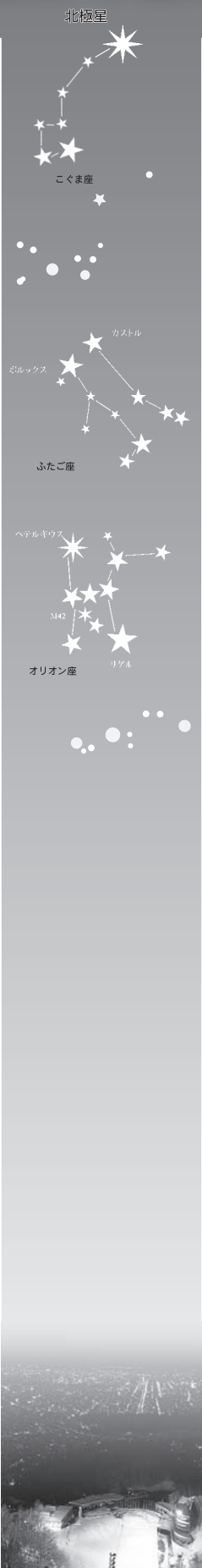
音の心象風景

上川北部医師会 会長 吉田 肇

窓から流れてくるピアノの音色に、ふと立ち止まって耳を傾ける。そんな人になってほしいと、母は私にピアノを習わせました。厳しいレッスンに耐えきれず演奏の方は挫折したものの、母の願いどおり音楽は大好きです。息子は泣きながらヴァイオリンのレッスンに通っていましたが、大学でオーケストラの楽しさに目覚め、一端のプレイヤーになりました。今年三月にすみだトリフォニーホールで開かれた「北日本医科学生オーケストラフェスティバル」の演奏会ではコンサートマスターを務め、親バカながらかなり嬉しく、ヴァイオリンで正解だったと思いました。

最近話題になった恩田陸の「蜜蜂と遠雷」は音楽の心象風景を巧みに描写した小説ですが、「卒業式と蛍の光」を例に挙げるまでもなく、音楽は人生のさまざまな出来事と密接に結び付いています。息子に今回コンサートマスターとして弾いたチャイコフスキーの祝典序曲「1812年」の心象風景を尋ねたところ、一週間合宿して練習したにも関わらず「軍隊！」というありふれた答えが返ってきました。私の戸惑いを感じたのか、「心象風景なんて言われても、まだ経験が少ないから」と加えましたが、その経験が人生経験なのか、オーケストラの経験なのかは聞かずじまいでした。聴く方の楽しみに回った私には想像するべくもない、豊かな心象風景がプレイヤーにはあると思います。息子には音楽でも人生でも多くの経験を積み、誰かによって書かれたものではなく、自分だけの心象風景をたくさん持ってほしいと願っております。

私の義兄もアマチュアヴァイオリニストですが、「医者ではない自分は想像できて、ヴァイオリンを弾いていない自分は想像できない」と言っております。いつの日か息子も同じことを言うのかもしれませんが。



増毛山道

留萌医師会 会長 川上 康博

増毛山道とは江戸時代に増毛町別荘を起点として天狗岳、雄冬岳、浜益御殿さらに石狩町浜益地区に至る約38キロが開削され、明治後期には商人らが行き交う交易路として、またにしん漁が衰退した昭和25年頃まで地域住民の生活産業道路として使用されていました。その後国道231号の開通により、ササに覆われて通行不能になっていました。平成20年増毛山道復元を実現するためのNPO法人増毛山道の会が設立され、その範囲が地権者、国や北海道の土地、国定公園の中にあるため、振興局と協議して復元事業を地元有志が中心となって行うこととなり、ササ伐採が開始されました。

平成28年10月に全区間が再生されました。復元された区間で体験トレッキング、増毛中学校の宿泊研修も行われ、また山道の学術研究もされ、留萌管内のにしん漁の栄枯盛衰と江戸時代から昭和に閉鎖されるまでの歴史的遺産の継承が期待されています。

NPO法人は平成29年6月増毛山道全線開通フォーラムを札幌地下歩行空間で開催し、広報活動の継続、会員応募、一般開放と地域観光・振興を兼ねたトレッキング事業を計画しています。

私事ですが、経験・知識もないにも関わらず健康と体力維持のため、登山を始めました。体調を考えながら、高齢者の無謀な行動と思われないように注意しながら、家族とまず札幌の藻岩山、円山登山を始めました。去年は思い切って、雨竜沼を散策しました。散策路では皆さんガイドブックを見ながら、野花を觀賞されていましたが、自分は花を見る余裕はなく歩くだけでした。これからの目標として、何とか事前に体力を付け南暑寒岳、暑寒別岳の登山を目指しています。NPO法人主催の増毛山道トレッキング事業の皆さまに迷惑を掛けないよう参加したいと思っています。

